

生涯教育研修会報告書

学術部 学発番号 第 12-054 号

平成 25 年 1 月 22 日 報告

報告者：増田健太

所属：京都大学医学部附属病院検査部

連絡先：075-751-3484

行事名：京都府臨床検査技師会 情報システム分野 講演会

演題 1：リニューアル総合検査システムの紹介

講師 1：増田 健太 技師

講師所属 1：京都大学医学部附属病院 検査部

演題 2：システム導入に関わるすべての人が知っておくべきグローバルスタンダード

講師 2：大塚 博幸 技師

講師所属 2：(財)先端医療振興財団 先端医療センター

日時：平成 25 年 1 月 19 日(土) 14：30～16：45

場所：TKP 京都四条烏丸 第 1 会議室

分類：情報システム 11-基礎 006(管理運営) 20 点

主催：京都府臨床検査技師会情報システム分野

会員参加人数 16 人（うち京臨技のみ会員 1 人）

仮会員 0 人

非会員 0 人

賛助会員 6 人

学生 0 人

以下、講習内容など

多くの検査室でシステム化が進められている昨今ではあるが、プロジェクトマネジメントという概念を基本としてシステム導入・更新が行われている例は、医療業界では少ないと言われている。そこで今回は、2012 年 1 月の京大病院検査部におけるシステム更新に関しての実務的経験を紹介するとともに、プロジェクトマネジメントの先駆者である先端医療センターの大塚先生をお招きして、さらに広い視野での、システム導入に関わる全ての検査技師が知っておくべき知識についての講演を聴く機会を設けた。

システム更新に関わらず、様々な規模のプロジェクトが業務の中に存在するが、そのプロジェクトメイキングに際して陥りやすい法則が以下のようなものである。

- ・WGをたくさん作り、各部門とりあえず公平に参加
- ・WGが決定機関であると勘違いし、要望すれば何でも実現してもらえと思う
- ・WG参加のメンバーは各部の利益代表者であるので、組織全体の利益を考えられない
- ・IT化のリーダーに、医療の分かる人ではなく、ITが得意な人を選定してしまう
- ・組織全体のBPRに関わる問題は避け、現状医事の計画を立てる
- ・肩書きがあり、声の大きな人に惑わされ、本質的課題を見過ごす
- ・例外的な運用・処理・事象にとらわれ、基本的な運用検討が後回しになる

このような失敗をしないための手法として、PMBOK というものがある。システム更新だけにとどまらず、どんな小さなプロジェクトであっても、その手法は利用可能である。この PMBOK の初歩的な部分をはじめとして、さらに情報システムの標準化にいたるまで、今後システム更新をひかえている技師が知っておくべき不可欠な知識を得ることができた。このような手法を今後の業務に活かしていきたい。

(報告者 増田 健太)